

平成27年度施策評価調書

整理番号	18
評価担当課	都市整備課
職・氏名	

1 施策の名称等

施策名(基本事業)	冬の安心安全な道路空間の確保		
総合計画の位置づけ	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり(生活環境・都市基盤)
	主要施策	29	雪を活かし雪に強いまちづくりの推進

2 施策の現状分析と意図

施策の対象、意図(誰、何をどのようにしたいのか)	冬期間の市道除排雪サービス、安全な交通の確保を図ります。
施策の現状(現状どのような手段を講じているか)	市民からの除排雪作業に対する要望が年々増加し、冬期間の交通の確保の除排雪だけではなく、状況に応じて、除排雪作業の指導や雪の処理を行っている。
施策の課題	除雪に携わるオペレーターの高齢化と作業員不足が進んでいる中、オペレーター不足は極めて重要な課題であり、除雪に携わる業者人員の確保を図る必要があり、市民との協働も理解していただく必要がある。

3 成果指標の達成状況

成果指標	指標の説明	区分	H24	H25	H26	目標年度(年度)
市道除雪事業(委託)	冬期間進めている除雪延長	目標値	445	445	449	
		実績値	445	445	449	
		進捗率	100%	100%	100%	
市道排雪事業(カット排雪)	冬期間進めている排雪延長	目標値	142	145	145	
		実績値	142	145	145	
		進捗率	100%	100%	100%	
道路除排雪事業(排雪タンク助成・市道及び私道ほか除排雪助成)	冬期間除排雪に関する助成費用	目標値	13,280	16,880	18,082	
		実績値	22,847	16,489	13,410	
		進捗率	172%	98%	74%	
除排雪機械購入事業	除雪機械更新購入台数	目標値	1	1	0	
		実績値	1	1	0	
		進捗率	100%	100%	#DIV/0!	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

4 施策の達成状況

施策の達成度	理由・問題点等	評価基準
A	冬期間の交通の確保を継続的に進めていることから、目標を達成していると判断した。	A: 計画目標に向けて順調に推移 B: 計画目標に向かって概ね順調 C: 計画目標に向けて進捗はやや遅れている D: 計画目標に向け進捗は遅れている

5 今後の方向性

今後も、冬期間の交通確保のため、継続して行く。

6 ワーキンググループの意見等

1次評価のとおり

7 外部評価の意見等

1次評価のとおり

8 2次評価の意見等

1次評価のとおり

9 施策を構成する事務事業

(1)H26年度実施事業

事業番号	事務事業名	事業の概要	H26決算額	1次評価						外部評価	2次評価
				妥当性	有効性	効率性	公平性	達成度	評価		
1	市道除雪事業(委託)	委託による除雪事業	189,105	a	a	b	b	a	A		
2	市道除雪事業(カット排雪)	委託による除雪事業	212,875	a	a	b	b	a	A		
3	道路排雪事業(排雪ダンプ助成他)	各助成の申請により、除排雪費用の一部を負担する。	13,410	a	a	b	b	a	A		
4	除排雪機械購入事業	老朽化した除雪機械の更新購入を行う。	0	a	a	d	b	a	A		

(2)その他の取組(既に終了した事業や予算を伴わない取組等(1)以外の取組を記入してください。)

--

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	18	枝番	1
評価担当課・係・職名・氏名	都市整備課管理係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	市道除雪事業(委託)			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり(生活環境・都市基盤)
		主要施策	29	雪を活かし雪に強いまちづくりの推進
		基本事業	80	冬の安心安全な道路空間の確保
		実施計画事業	98	市道除雪事業(委託)

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	冬期間の降雪による交通の確保のため、道路の除雪作業を目的としている。			
対象(何を又は誰を)	市民			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	委託による除雪作業			
意図(どのような成果を期待しているか)	交通障害をなくし、安全な道路空間を確保する。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直 営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	H15 年度	終期設定	有 (終期 年度) ・ 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 除雪延長 実施した除雪延長	km	目標	445	445	449	449	
			実績	445	445	449	—	
	2		目標					
			実績					
	3		###					
			実績					
成果指標	1 除雪延長 実施した除雪延長	km	目標	445	445	449	449	
			実績	445	445	449	—	
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	191,966	176,295	189,105	189,745	
国道支出金	16,116				
地方債					
その他					
一般財源	175,850	176,295	189,105	189,745	
人件費	20,049	19,887	19,887	19,887	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	3.00	3.00	3.00	3.00	
総事業費	212,015	196,182	208,992	209,632	
対前年比(%)	—	93	107	100	
事業コスト	活動指標1	477	440	465	装事業費/除雪延長
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	除雪事業については交付金事業としてH21から補助事業採択されるようになり、H23～H24においては補助事業として行ったが、大雪シーズンには際限なく事業費が嵩む等の課題から、H25年度に一部を単独事業とする見直しを行っています。
改善点	指摘事項 有 () 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 4 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	本事業は、冬期間の交通の確保をするため、除雪サービスとして必要不可欠である。
有効性 4 目的を達成するための方法として有効か？	a	現在の名寄市における除雪事業は、有効な手段である。
効率性 3 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	b	除排雪における市内の人員、機械力を最大限発揮し、道路・歩道の交通を確保しています。また、本事業の経費については、主に自然相手であるため、計画的なコストの削減は困難である。
公平性 3 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	b	冬期間の交通を確保するため、生活に支障が出ないように公平に除雪を行っている。
達成度 4 活動指標、成果指標の達成度は？	a	過去3年間の活動指標は100%であり、成果指標も100%で目標を達している。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	本事業は、交通の確保を常に求めていることから、今後も同等に継続する必要がある。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	18	枝番	2
評価担当課・係・職名・氏名	都市整備課管理係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	市道除雪事業(カット排雪)			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり(生活環境・都市基盤)
		主要施策	29	雪を活かし雪に強いまちづくりの推進
		基本事業	80	冬の安心安全な道路空間の確保
		実施計画事業	99	市道排雪事業(カット排雪)

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	冬期間の降雪による交通の確保のため、道路の排雪作業を目的としている。			
対象(何を又は誰を)	市民			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	委託による排雪作業			
意図(どのような成果を期待しているか)	交通障害をなくし、安全な道路空間を確保する。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直 営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	H15 年度	終期設定	有 (終期 年度) ・ 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 排雪延長 実施した排雪延長	km	目標	142	145	145	145	
			実績	142	145	145	—	
	2		目標					
			実績					
	3		###					
			実績					
成果指標	1 排雪延長 実施した排雪延長	km	目標	142	145	145	145	
			実績	142	145	145	—	
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	239,127	209,149	212,875	189,745	
国道支出金	40,430	20,500	42,400		
地方債					
その他					
一般財源	198,697	188,649	170,475		
人件費	20,049	19,887	19,887	19,887	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	3.00	3.00	3.00	3.00	
総事業費	259,176	229,036	232,762	209,632	
対前年比(%)	—	88	102	90	
事業コスト	活動指標1	1,821	1,578	1,605	装事業費/除雪延長
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	除雪事業については交付金事業としてH21から補助事業採択されるようになり、H23～H24においては補助事業として行ったが、大雪シーズンには際限なく事業費が嵩む等の課題から、H25年度に一部を単独事業とする見直しを行っています。
改善点	指摘事項 有 () 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 4 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	本事業は、冬期間の交通の確保をするため、除雪サービスとして必要不可欠である。
有効性 4 目的を達成するための方法として有効か？	a	現在の名寄市における除雪事業は、有効な手段である。
効率性 3 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	b	除排雪における市内の人員、機械力を最大限発揮し、道路・歩道の交通を確保しています。また、本事業の経費については、主に自然相手であるため、計画的なコストの削減は困難である。
公平性 3 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	b	冬期間の交通を確保するため、生活に支障が出ないように公平に排雪を行っている。
達成度 4 活動指標、成果指標の達成度は？	a	過去3年間の活動指標は100%であり、成果指標も100%で目標を達している。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	本事業は、交通の確保を常に求めていることから、今後も同等に継続する必要がある。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	18	枝番	3
評価担当課・係・職名・氏名	都市整備課管理係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	道路除排雪事業(排雪ダンプ助成・市道及び私道ほか除排雪助成)			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり(生活環境・都市基盤)
		主要施策	29	雪を活かし雪に強いまちづくりの推進
		基本事業	80	冬の安心安全な道路空間の確保
		実施計画事業	100	道路除排雪事業(排雪ダンプ助成・市道及び私道ほか除排雪助成)

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	冬期間の生活を快適に過ごすため、除排雪に関する助成事業を進めている。					
対象(何を又は誰を)	市民					
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	各助成の申請により、除排雪費用の一部を負担する。					
意図(どのような成果を期待しているか)	名寄市が行う市道の除排雪以外に市民の宅地周り等の快適な生活環境整備への助成事業として進めています。					
事業実施主体	名寄市					
事業実施方法	直 営	一部委託	全部委託	補助等	請負	その他()
事業実施期間	始期	H1 年度	終期設定	有 (終期	年度)	無
根拠法令・条例等						

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 助成費用	千円	目標	13,280	16,880	18,082	18,150	
			実績	22,847	16,489	13,410	—	
	2		目標					
			実績					
	3		###					
			実績					
成果指標	1 助成費用	千円	目標	13,280	16,880	18,082	18,150	
			実績	22,847	16,489	13,410	—	
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	22,847	16,489	13,410	18,082	
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	22,847	16,489	13,410		
人件費	3,342	3,315	3,315	3,315	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	0.50	0.50	0.50	0.50	
総事業費	26,189	19,804	16,725	21,397	
対前年比(%)	—	76	84	128	
事業コスト	活動指標1	1	1	1	装事業費/実施助成費用
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	排雪ダンプ助成はH10年から1台2,000円の助成で開始し、H17に1台1,000円としました。H22から一般住宅は1台2,000円、店舗併用住宅は1,000円に変更しました。また、風連地区で進められていた利雪克雪事業を助成事業として改善しています。
改善点	指摘事項 有 () 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 4 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	本事業は、冬期間のより快適な生活空間を確保するための助成サービスとして必要不可欠である。
有効性 4 目的を達成するための方法として有効か？	a	現在の名寄市における除雪事業は、有効な手段である。
効率性 3 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	b	除雪状況に比例して申請件数も増えることから、当面はそのまま事業継続していきたい。
公平性 3 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	b	助成事業の申請により、助成をしているため、偏りがない。
達成度 4 活動指標、成果指標の達成度は？	a	降雪状況にもよるが、助成事業の認識が市民に浸透している。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	本事業は、今後も継続する必要がある。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	18	枝番	4
評価担当課・係・職名・氏名	都市整備課管理係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	除排雪機械購入事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり(生活環境・都市基盤)
		主要施策	29	雪を活かし雪に強いまちづくりの推進
		基本事業	80	冬の安心安全な道路空間の確保
		実施計画事業	101	除排雪機械購入事業

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	除排雪事業を継続するため除雪機械の更新購入を進めている。				
対象(何を又は誰を)	市民・委託業者				
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	補助金等を使い、老朽化した除雪機械の更新購入を行っている。				
意図(どのような成果を期待しているか)	除雪機械の故障による除排雪サービスの低下を防ぐ。				
事業実施主体	名寄市				
事業実施方法	直 営	一部委託	全部委託	補助等	請負 <u>その他(備品購入)</u>
事業実施期間	始期	年度	終期設定	有 (終期 年度)	無
根拠法令・条例等					

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 除雪機械更新購入	台	目標	1	1		1	
			実績	1	1		—	
	2		目標					
			実績					
成果指標	1 除雪機械更新購入	台	目標	1	1		1	
			実績	1	1		—	
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	12,569	19,604		42,000	
国道支出金	7,681	10,664			
地方債					
その他					
一般財源	4,888	8,940			
人件費	3,342	3,315	0	3,315	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	0.50	0.50		0.50	
総事業費	15,911	22,919	0	45,315	
対前年比(%)	—	144	0	#DIV/0!	
事業コスト	活動指標1	15,911	22,919	#DIV/0!	装事業費/実施除雪機械更新購入
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	今後の除排雪事業について、オペレーターの高齢化による人員の確保が課題。また、所有している除雪機械についても老朽化が進んでいることから、計画的に除雪機械の更新購入を進めなければならない。
改善点	指摘事項 有 () 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 4 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	本事業は、除排雪事業に欠かせない機械であるため、必要とされる。
有効性 4 目的を達成するための方法として有効か？	a	除排雪事業を実施して行く中で必要な機械であるため大変有効である。
効率性 3 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	b	除排雪事業を実施する上で必要不可欠である。また、現在の除雪機械は環境にも配慮した機械なので、コストの削減は困難である。
公平性 3 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	b	除雪機械がないと、市民生活に支障があるので、偏りがない。
達成度 4 活動指標、成果指標の達成度は？	a	本事業は、現在計画的に更新を進めている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	本事業は、除排雪事業の継続のためにも必要性がある。	
A:現状のまま継続	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
B:進め方を改善		
C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)		

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり